

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価（案）

1 めざす学校像

個々に応じた教育活動を通して、社会で自立するための知識や職業観を備えた人物を育成する【スクールミッション】		
1 多様性を磨く	【自分と他者を大切にすることを養い、絶えず人権意識を見つめなおす生徒・教職員を育成する】	
2 キャリア教育	【自らの生き方やキャリアについて考え、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する】	
3 チャレンジ精神	【教育活動・学校行事等を通して、積極的にチャレンジする意識を高め、自己肯定感の向上につなげる】	
4 支援マインド	【生徒が「学校に行きたい」「先生に相談したい」と思える、生徒に寄り添った学校（心の居場所）をつくる】	

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 （１）「わかる授業」をめざした授業改善への取組み、生徒の基礎学力を定着させ確かな学力を身に付けさせる。 ア 授業内で生徒が「できた。わかった」と感じられるように、「生徒支援」と「教科指導」の両輪で授業づくりをめざす。 イ 観点別学習状況の評価や授業アンケート、学校教育自己診断の結果を活用し、授業改善を進める。 ウ 基礎学力の定着を図るために、個に応じた指導・支援等を念頭においた学習計画を作成する。 ※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「授業内容は分かりやすい」の肯定率を令和 9 年度までに 85%以上をめざす（R 5：88.9%、R 6：93.3%、R 7：84.6%）		
2 安全安心で魅力ある学校づくり （１）個々の生徒への支援体制の強化と生徒の居場所づくり ア 支援Ｃｏを中心に生徒情報の共有やアセスメントを進め、専門人材（ＳＣ・ＳＳＷ等）や関係機関と連携しながら支援体制の強化を図る。 イ 個別的教育支援計画の作成をはじめ、支援の接続が円滑に進められるように卒業後の進路先（大学・企業等）や機能統合校と連携を図る。 ウ 全教職員により生徒との信頼関係に基づく一致協力した生徒支援体制を築き、学校が安心して登校できる居場所となるような学習環境を整備する。 エ 不登校等の未然防止に向け、生徒情報の共有を積極的に行い、家庭や関係機関と連携しながら、課題を抱えた生徒に寄り添った支援・サポートを行う。 ※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率を令和 9 年度までに 85%以上をめざす（R 5：72.2%、R 6：93.3%、R 7：84.6%） （２）安全教育の充実と安心安全な教育環境整備の推進 ア 外部機関と連携した交通安全・薬物乱用防止・防災防犯等の講習を行い、日ごろから生徒に安全教育について意識させるとともに、生徒の健康の保持増進にむけた取組みを推進する。 イ 人権・多様性を尊重する支援教育・人権教育の推進に向け、校内研修を実施し、生徒・教職員の人権尊重の意識を高める。 ウ 生徒の安全を優先する老朽化施設・設備等の修理・廃棄等を行い、教育環境の整備を推進する。 ※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「いのちの大切さや社会のルールや人権について学ぶ機会がある」の肯定率を令和 9 年度まで 90%以上をめざす。（R 5：88.9%、R 6：100%、R 7：84.6%） （３）令和 9 年度、今宮工科高校へ機能統合 ア 再編整備対象校として、令和 9 年度末の機能統合まで、在籍生徒の教育環境を保障する。 イ 令和 8 年度末の校地替えに合わせ、機能統合校に本校の特色を継承し、設備や備品、文書等を移設する。 ※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「学校に行くのが楽しい」の肯定率を令和 9 年度までに 85%以上を維持する（R 5：83.3%、R 6：80.0%、R 7：92.3%）		
3 キャリア教育の推進と自己肯定感の醸成 （１）発達段階に応じたキャリア教育の推進 ア 生徒の進路希望に応じた適切な情報を提供し、自己の適性や能力についての気づきを与え、進級（卒業）を意識させながら、自己決定・自己判断を促す。 イ 総合的な探究の時間等を活用し、系統立てたキャリア教育を進め、生徒が自らのライフプランやキャリアデザインについて考える場の充実を図る。 ※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を令和 9 年度まで 90%以上をめざす。（R 5：94.4%、R 6：93.3%、R 7：84.6%） （２）特別活動等を通してチャレンジ精神・自己肯定感を醸成する ア 短い部活動時間であっても、効率よく活動し定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、部活動を通して集団の規律のあり方などを理解させる。 イ 学校行事等の校内外の活動を通してチャレンジ精神や他者と関わる力を養うことで、生徒の達成感や自己肯定感を高める。 ※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率は令和 9 年度まで 90%以上を維持する。（R 5：94.4%、R 6：100%、R 7：100%）		
4 働き方改革に向けた取組み （１）大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する ア ＮＯクラブデー、ＮＯ残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などを積極的に活用し、教職員の勤務時間の管理を行い、時間外在校等時間の減少を図る。 ※指標：全教職員の 1 人当たりの平均時間外在校等時間を令和 9 年度までに 年間 50 時間未満にする。（R 5：68 時間 7 分、R 6：49 時間 2 分、R 7：68 時間 54 分）		

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成	(1)「わかる授業」をめざした授業改善への取組み、生徒の基礎学力を定着させ確かな学力を身に付けさせる。 ア 「生徒支援」と「教科指導」の両輪で授業づくり イ 指標を活用した授業改善	ア 生徒の特性や学習状況に鑑み、ユニバーサルデザインを意識した教材や教授法に工夫し、全ての生徒にとって「わかる授業」をめざす イ 観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用することにより、PDCAサイクルを確立し、授業改善を推進する。	ア 生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率 85 以上をめざす。[84. 6%] ・教員向け学校教育自己診断の項目「教育実践に役立つ研修や研究に取り組める体制が整っている」の肯定率 80%以上を維持する。[84. 2%] イ 生徒向け学校教育自己診断の項目「自分が興味・関心のもてる教科や科目がある」の肯定率 80%以上を維持する。[92. 3%] ・授業アンケート結果、2 回の平均値 3. 65 を維持する [3. 68]	
2 安 全 安 心 で 魅 力 あ る 学 校 づ く り	(1) 個々の生徒への支援体制の強化と生徒の居場所づくり ア 支援体制の充実 イ 支援の接続に向けて ウ 生徒の居場所づくり エ 不登校等の未然防止 (2) 安全教育の充実と安心安全な教育環境整備の推進 ア 安全教育の充実と健康の保持推進への取組み イ 人権教育の推進 (3) 令和9年度、今宮工科高校へ機能統合 ア 学習環境の保障 イ 校地移管に向けての準備	ア 支援C oを中心に生徒情報の共有やアセスメントを進め、専門人材（SC・SSW等）や関係機関と連携した支援体制をつくる イ 個別の教育支援計画等の着実な運用を進め、卒業後も支援の接続が円滑に進められるよう進路先や関係機関と連携する ウ 生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との信頼関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。 エ 不登校等の未然防止に向け、生徒情報の共有を積極的に行い、家庭や関係機関と連携を進める。 ア 地域の公的機関等の外部人材を活用した教職員・生徒への研修や講習を実施する。 ・生徒の健康の保持推進に向け、主体的に情報提供等を行う。 イ 人権尊重の意識を持って、生徒対応や教員間の関係性を保てる学校環境を維持する。 ア 在校生徒が卒業するまで、現在の学習環境を維持する。 令和9年度に本校4年次生が機能統合校に円滑に校地移動できるように、環境整備を進める。 イ 機能統合校への設備等の移設および不要物品等の廃棄等を進め、年度末に現校地を明け渡す。	ア 教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率 80%以上を維持する。[78. 9%] イ 支援に関する校内研修を年3回以上実施する。[4回] ウ 生徒向け学校教育自己診断の項目「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率 85%以上をめざす。[84. 6%] エ 教員向け学校教育自己診断の項目「生徒指導の方針について、教員間で十分にコンセンサスが取れている」の肯定率 70%以上をめざす [63. 2%] ・教員間の情報共有会議や専門人材が関わるケース会議を年間 20 回以上行う。[21 回] ア 外部機関等との連携による避難訓練や講習、校内研修を年3回以上実施する。[5回] ・「保健だより」「生徒支援だより」等の生徒・保護者への情報発信を 20 回以上行う。[28 回] イ 教員向け学校教育自己診断の項目「体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」の肯定率 90%以上をめざす [84. 2%] ・生徒向け学校教育自己診断の項目「いのちの大切さや社会のルールや人権について学ぶ機会がある」の肯定率 90%以上をめざす。[84. 6%] ・人権・多様性等に関する研修を 3 回以上実施する。[2回] ア 生徒向け学校教育自己診断の項目「学校に行くのが楽しい」の肯定率 85%以上を維持する。[92. 3%] イ 現校地の所管を施設財務課に返還。	
3 己 肯 定 感 の 醸 成	(1) 発達段階に応じたキャリア教育の推進 ア 進級（卒業）に向かうためのキャリア教育 イ 系統立ったキャリア教育の推進	ア 生徒の進路支援を充実させ、全員の進路が決定した状態で卒業させる。 ・進級（卒業）に向かうためのキャリア教育を実践する。 イ 系統立てたキャリア教育の一環として総合的な探究の時間やホームルームを活用する。	ア 卒業時の進路未決定者 0 人を維持する。[0 人] ・進級（卒業）率 90%以上をめざす。[92. 8%] イ 外部連携したキャリア教育や会社訪問等を生徒が行う機会を 10 回以上実施する[17 回]	

府立西野田工科高等学校 定時制の課程

	(2) 特別活動等を通してチャレンジ精神・自己肯定感を醸成する ア 部活動へのチャレンジ イ 学校行事等へのチャレンジ	ア 部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し、定時制通信制大会等へ積極的に参加する。 イ 達成感、自己肯定感を高めるために、学校行事等を通して、チャレンジ精神や他者と関わる力を養う。	・生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事や生き方について考える機会がある」の肯定率、90%以上をめざす。[84. 6%] ア 生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率 90%以上を維持する。[100%] イ 生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率 90%以上を維持する。[92. 3%]	
4 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) 働き方改革に向けた取組み	ア NOクラブデー、NO残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などの積極的な活用	ア 年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教育職員をゼロにする。 ・全教職員の年間 1 人当たりの平均時間外在校等時間について年間 50 時間未満にする。[68 時間 54 分]	